



【わがまちデータ】
 ■面積 69.96平方キロメートル
 ■人口 109,705人
 ■世帯数 45,826世帯
 (9月1日現在)

わがまち自慢

取手市では、地域が連携しながら市民の生涯にわたる健康的なライフスタイルの確立をめざす「ウェルネス施策」(健康増進の総合的取り組み)を推進しています。さまざまなグループが健康づくりに参画することで、地域に住まう「縁ある隣人」との協働も盛んになります。取手市民の「つながり力」も大きくなり、創造的な活動がベストミックスする、幸福感あふれるまちづくりにご期待ください。

取手市長
藤井 信吾さん



プレゼント

■「一ノ矢にんにくせんべい」創業100年以上の取手市山王、椎名米菓の「にんにくせんべい」は、厄よけニニックのお守りで知られる「一ノ矢八坂神社」にちなんだ一品。7枚入りを2袋、10人にプレゼント。はがきに住所、氏名、年齢「一ノ矢にんにくせんべい」と明記、〒302-0004 取手市取手2の16の41染野本陣ビル 茨城新聞社 取手・龍ヶ崎支局「にんにくせんべいプレゼント係」まで。締め切りは10月3日(消印有効)。



健康、幸せづくりの場に

取手市は「健康づくり推進室」を4月に設置して、具体的な施策展開を図っている。検診や予防接種、健康相談、介護予防などの事業を体系化。市民の健康維持・増進に関する企画立案を通し、効果的な健康増進施策を推進するのが目的で、「子どもから高齢者までが健康で生きがいを感じられる」環境づくりを目指す。

施策展開の骨格となるのが、「取手駅北土地活用構想」に基づく「ウェルネス・タウン取手」の創造に向けた「スマートウェルネスシティ」としての具体化。「健康づくり」と「幸せづくり」を自治会やNPOなど市内の各種団体と連携を強めながら実現を図る。

市が実施した昨年度の市民アンケートでは「家計」「家族」など11項目の「幸福感」を判断する項目の中で、「健康」が68.6%とトップになった。また、「精神的ゆとり」「生きがい」なども30〜40%で、市民の関心の度合いがうかがえる。同市は、年度内にまとめる基

スマートウェルネスシティ



本方針の前提に「歩く」を掲げている。2013年の高齢化率27.7%を踏まえ「健康・健康づくり」への施策展開を出し、市民全体で考え行動に結

びつけるといふ。ウオーキング人口は増加中。市内でも約8団体、500人が楽んでいる。市は「施策も含めて、さらに調査して健康づくりに役立てたい」と話す。

一方で、生きがいや地域の絆づくりも重要な柱となる。高齢になっても、地域で活動したり、ボランティアなどで社会参加できる仕組みを充実させ、地域活動リーダーへの研修、自治会活動の支援などを通して底辺の拡大を目指す。

10月15日には久野謙也筑波大学院教授を招く市民大学特別講座「健康長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ」、26日には健康まつりで「デューク更家さん」も登場する。市が担当する「多彩な取り組みを市民に身近な健康、幸せづくりの場にした」と話している。

「歩きは健康づくりの基本」と近隣を巡るときわ自治会「Happy Loveまわ台」の会員ら取手市富和田(取手市役所提供)

連携し可能性広げよう

「幸福感」の市民アンケートでは「健康状況」のほかに「家計状況」「友人関係」などが高い割合を示した。幸せと感ずる基準は人さまざまだが、「健康」が根底にあることだけは変わらないだろう。肉体的、精神的充実が明日へ向かって進む原動力とな

取材後記

る。市内では文化、スポーツ、ボランティアなど多くの市民団体が活動している。マンネリ化克服を話し合い、それぞれの得意分野を生かしながらの取り組みが続く。こうした中で「各団体の相互交流で新たなステージも期待できる」との指摘がある。簡単に連携できるものとは思わないが、「健康と幸せづくり」への可能性を広げたい。(取手龍ヶ崎支局・荒井俊夫)